

「がん対策日本一」を目指す広島県 がん高精度放射線治療センターを開設

広島県支部主催視察研修より

当協会広島県支部は2015年12月3日、継続研修の一環として、JR広島駅・新幹線口から歩いて5分の好立地な場所で10月1日から診療開始したばかりの、広島県立広島がん高精度放射線治療センター（以下、センター）で講演会と施設見学を行った。講演は、同センター長／広島大学大学院放射線腫瘍学教授の永田靖氏に、「広島県のがん治療の現状や『広島がん高精度放射線治療センター』の概要、方針、役割（高度医療の提供、がん診療連携、人材育成）等について」と題してご講演いただいた。

広島県のがんを取り巻く現状と対策

まず、広島県のがんを取り巻く現状などが紹介された。

がんの死亡・がん罹患数の状況

広島県では、がんによる死亡者が全死亡者の約3割を占め、1979年から30年以上も第1位という状況が続いている。1年間でがんにかかる人の数は1万9,000人程度で、部位別にみると、男性は胃、肺、大腸、女性は乳房、大腸、胃などが多い。



広島県立広島がん高精度放射線治療センター。左の建物は広島県医師会と地域医療総合支援センター

がん医療提供体制の状況

県内には、「がん診療連携拠点病院」がすべての二次医療圏で指定され、住み慣れた地域で質の高い医療が受けられる基盤を整備している。検診から術後のフォローアップまでを切れ目なくつなぎ、適切で安全ながん医療を提供するため、患者数の多い5つのがん（乳・肺・肝・胃・大腸）については、県独自の「がん医療ネットワーク」を構築している。

がん検診の状況

がん検診受診率は20～30%（全国順位20位～38位）と低迷、がんが治る確率が飛躍的に高くなる早期発見に有効な「がん検診」の機会が十分に生かされていない。

広島県がん対策推進計画（第2次）の概要

前述のような状況に対して、行政や医療関係者が相互に協力して県民総ぐるみで、がん対策を推進するための条例が制定されてきた。さらに、2013～2018年度の5年間を計画年度とする第2次「広島県がん対策推進計画」を策定し、「がん対策日本一」の実現を目指している。



講義を受ける視察団。募集開始からすぐに定員一杯になるほど関心が高かった

基本理念（要旨）

県内のどこに住んでいても、どんながんでも、必要な手立てや情報が受けられる総合対策を強化。県民ががんに関心を持ち、予防や検診など「がん対策」に取り組む。

目指す姿（将来像）

- ①がんで死亡する県民が減少している。
- ②がん患者や家族の苦痛が減り、療養生活の質が向上している。
- ③がんになっても、自分らしく豊かに生きることのできる地域社会が実現している。

「がん対策日本の一」実現に向けた6つの柱

1. がん予防

- 禁煙支援・保健指導の充実・強化
- 受動喫煙防止の促進
- 肝炎ウイルス感染者の早期発見・早期治療のため、ウイルス検査や治療への医療費助成

2. がん検診

- がん検診への理解や知識の普及啓発
- がん検診を受診しやすい環境づくり
- 対象者1人ひとりに受診勧奨の推進
- 精密検査の受診把握など精度向上を図る

3. がん医療

- がん診療連携拠点病院の機能強化や部位別のがん医療ネットワークの構築（乳・肺・肝・胃・大腸）
- 検診から治療、経過観察まで切れ目のない医療
- 「高精度放射線治療センター」の整備や専門スタッフの育成、低侵襲手術の技術向上など

4. 緩和ケア

- 緩和ケアの活動実績等の評価・公表を行うなど質の向上を図る
- 在宅緩和ケアを提供する医療・介護・福祉関係者の顔の見える関係づくり、在宅支援緩和ケアコーディネーターの配置など、地域在宅緩和ケアの提供体制を構築

5. 情報提供・相談支援

- がん診療連携拠点病院「支援相談センター」の情報提供・相談支援機能の強化
- がん患者やその家族が悩みを相談できるピアサポーターの育成、ピアサポートの充実

6. がん登録

- がん登録の精度向上
- 生存率の公表、拠点病院ごとの生存率を活用した診療評価等の促進



見学者から次々と質問が出た。左は、講演と施設を案内してくださったセンター長の永田靖氏

がん放射線治療の新拠点誕生

続いて、センターの概要が紹介された。

理念：がん医療を より高度に より優しく

広島市内の4基幹病院^{※1}、県内7二次医療圏のがん診療連携拠点病院^{※2}と連携した「ネットワーク型がんセンター」として高精度の放射線治療を、原則通院で行う施設である。高度な医療を安全に提供すると同時に、治療に携わる医療人の育成も基本方針に掲げる。県が購入した敷地6,000㎡に、県医師会が整備した広島県医師会新会館（広島県地域医療総合支援センター）と、県が整備した地下1階、地上2階の広島がん高精度放射線治療センターで構成され、同医師会が指定管理者として運営する公設民営方式の施設である。

講演の後、3グループに分かれてセンター内を見学した。1階は受付から診察室、CT室やMRI室などが並ぶ。治療室は地下にあるが、吹き抜きの庭から外光が差し込み、開放的で明るい。

また、同センターでは世界最先端の放射線治療機器が3台導入されており、そのうち1台のVero（ヴェロ）4DRTは、呼吸に伴って移動する腫瘍にピンポイントで放射線を照射できる、動体追尾技術を搭載した県内初の装置だという。

「がん対策日本一」を目指す広島県の計画を聞き、また最先端の施設を見学し、収穫の多い講演会と施設見学であった。

（本部広報委員 藤井 康彦）

※1：広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、広島赤十字・原爆病院

※2：安佐市民病院、広島総合病院、呉医療センター、中国労災病院、呉共済病院、東広島医療センター、尾道総合病院、尾道市立市民病院、福山市民病院、福山医療センター、中国中央病院、三次中央病院